

| 1 学校教育目標 | 2 本年度の重点目標 |
|--------------------|---|
| 自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成 | ①知(確かな学力) ②徳(豊かな人間性) ③体(たくましい心と体) |

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学校運営

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|--------------------|----------------------------------|--|---|-----|---|--|
| 学校運営 | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | 教職員の時間外勤務縮減のための工夫・改善 | ・毎週、水曜日の定時退勤実施率80%を目指す。 ・毎月の部活動休業日を7日間実施する。 | ・毎週、水曜日を「定時退勤日」に設定し、行事風板に提示する。 ・部活動は原則、毎週水曜日を部活動中止とする。また、第3日曜日も部活動中止とし、最低2日間、土曜日から日曜日に休業日を取る。 ・運営委員会、議案について細部まで検討し、職員会議は主に周知・確認の場とする。 ・連絡事項は「スクールネット」を活用し、連絡会等の回数、時間を短くする。 | B | 【成果】 ・働き方改革を意図した定時退勤日の実施は、90.5%の職員が意識して取り組むことができた。また、職員会議も定時に終えることができた。 ・部活動について、毎週水曜日と第3日曜日は部活動休業日として実施することができた。また、土日を含めた毎月7日間の実施については、83%の職員、82.9%の保護者、76.5%の生徒が実施できていると回答している。 【課題】 ・勤務時間において、土日を含めた部活動等による長時間勤務の改善が必要である。 | ・業務改善委員会を開催し、業務の見直し及び働き方に対する教職員の意識改革を図る。また、毎週水曜日の定時退勤日を継続して行う。 ・多良中学校部活動活動方針を基に、部活動休業日を毎月8回実施する。また、毎週水曜日の部活動休業日を継続する。 |
| | ○家庭・地域との連携 | 2 家庭・地域と連携した「開かれた学校づくり」のための工夫・改善 | ・学校行事や授業参観への保護者の参加率40%以上を目指す。 | ・学校だよりや学年・学級だより、学校情報メール等を活用して、家庭への連絡や情報の発信・提供に努める。 ・学校行事や授業に外部指導者(地域の方)を講師として招く。 | B | 【成果】 ・毎月の学校便りの発行や学校ホームページの掲載などにより、学校の様子を情報発信することができた。 ・学校行事(文化祭)や授業参観(4回)の保護者の参加率は平均45.3%であった。事前に学校情報メール等を活用したことで参加者が前年度より増加した。 【課題】 ・授業参観において、実施回数や実施時期など、保護者の方が出席しやすい時期等の検討が必要である。 | ・学校便りを町内に回覧し、地域の方に学校の様子を知らせる。 ・保護者が参加しやすいように、授業参観の回数や実施日、内容等をPTA役員等とも検討し開催していく。 |

②知(確かな学力)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|----------|--------------------------------|---|---|-----|---|--|
| 教育活動 | ●学力の向上 | 3 個に応じた指導及びび分ける授業に向けた指導法の工夫・改善 | ・全国学力状況調査や佐賀県学習状況調査において全教科で県平均を上回る定着度をめざす。 ・意識調査で、生徒・保護者のわかる授業に対するプラス評価85%以上をめざす。 ・家庭学習時間が県平均を上回るよう、小中連携や保護者(家庭)との連携を図り、学力向上をめざす。 | ・学習状況調査等の分析を行い、教科ごとに指導法の改善策を練る。また、教職員の授業力の向上を図るため、学力向上推進委員会に授業を参観してもらい助言を請う。 ・TTや少人数授業を取り入れ、アンダーアチーバーへのきめ細かな指導を行う。 ・電子黒板などICT機器を活用し、より分かりやすい授業を行う。 ・小中で学習規律を確認し、一貫した教育を行う。 ・朝学習や放課後、休業日等を有効活用し、自主学習や補充学習を充実させる。 ・全職員の共通理解による学習規律の定着をはかり、落ち着いた学習環境をつくる。 | B | 【成果】 ・全教職員が県学習状況調査の分析を行い、生徒がどのような問題を苦手としているかを共通理解することができた。また、分析を基に苦手としている単元について各教科で復習の時間を設定することができた。 ・TTや少人数授業では約90%の生徒が「分かりやすい」と回答しており、成果がみられた。 ・電子黒板を活用し、図や資料を提示することで、より分かりやすい授業を行うことができた。 ・授業開始前の2分前黙想をすべての授業で行うことができ、落ち着いた環境で授業を行うことができた。 【課題】 ・TTや少人数授業では約90%の生徒が「分かりやすい」と回答しているが、一方で10%の生徒は効果を実感できていないため個に応じた指導方法の工夫改善が必要である。 | ・県学習状況調査の結果、分析を踏まえ、教科担当ごとに連携を図り、生徒が苦手意識をもつ単元の指導法改善に努める。 ・TTや少人数授業をより効果的に行うための、教員間でのような支援が必要なのか話し合い、個に応じたきめ細やかな指導を実施していく。 |
| | ○学習環境づくり | 4 家庭と連携した学習環境づくりのための工夫・改善 | ・意識調査で、生徒・保護者の家庭学習の充実度に対するプラス評価70%以上をめざす。 | ・「家庭学習のすすめ」を保護者に配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ・11月1日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とし、家庭学習の充実に取り組む。 ・生徒、保護者に自主学習ノートの活用法や学習意欲を提示する。 ・ゆたたりファイルを活用し、家庭の様子を学校と家庭で共有し、指導に生かす。 | B | 【成果】 ・生徒の約90%が家庭学習の充実のために自主学習ノートを活用しており、家庭学習の習慣化ができた。 ・自主学習ノートの活用法については、模範となる生徒のノートを提示するなどの方策をとることができた。 【課題】 ・月初めの平日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」と設定し5回実践できた。約50%の生徒が実践できているが、まだ周知徹底まで至っていない。 ・家庭学習の習慣化はできているが、学習時間が十分とはいえないため、学習方法等の指導が必要である。 | ・家庭学習をさらに充実したものにするために、自主学習ノートの内容を吟味したり、学習方法やタイムマネジメントなどを指導したりする。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーの実施率を100%に近づけるために、学習通信などを利用し、取り組み状況を家庭に連絡するとともに協力をお願いする。 |

③徳(豊かな人間性)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|------------|------------------------|--|---|-----|--|---|
| 教育活動 | ●心の教育 | 5 人権教育を通して心に響く教育活動の充実 | ・意識調査で、生徒・保護者の心の教育に対するプラス評価80%以上をめざす。 | ・人権作文や人権標語の取組とその発表会を行う。また、人権学習強固月間や人権週間を設け、人権集会や人権講演会等を実施する。 ・PTAと連携した教育講演会の開催や保護者への情報発信を行う。 ・人権教育の視点を明確にした道徳教育を実施する。 | A | 【成果】 ・夏期休業中の課題として、人権作文に取り組み、文化祭では生徒代表に発表してもらい、全校生徒で考えることができた。また2月に人権標語に取り組んだ。8月に平和集会、2月に人権集会を開催して人権や命の大切さについて学習した。9月に「人権尊重」をテーマにしたPTA教育講演会を開催し、人権教育の取組を学校行事として行った。生徒・保護者の人権教育に対するプラス評価はともに90%を超える結果であった。 【課題】 ・道徳や学級活動等を通しての人権教育が十分にはできなかった。実践に向け、年度当初に全職員に計画することを伝えなければならない。 | ・人権教育に関する学校行事を確実に実施し、内容の検討を担当者を中心に考える。 ・人権教育に関する長期休業中の職員研修の充実を図る。 ・人権教育の視点を明確にした道徳教育を実施する。 |
| | ●いじめ問題への対応 | 7 いじめのない学校づくりに向けた指導の充実 | ・意識調査で、生徒・保護者のいじめのない学校というプラス評価80%以上をめざす。 | ・生活アンケートを月1回実施し、情報を共有しながら予防的関わりや早期発見、早期対応に努め、教育相談を適宜行っていく。 ・Q-Uを実施し、生徒の学校生活の状況を個別に把握することで、要支援生徒に対して日常的な支援を行う。 ・保護者との連絡を密に行うなど、小さな情報を見逃さないよう家庭・地域・関係機関との連携を強化する。 | A | 【成果】 ・アンケート調査の結果は、生徒86.1%、保護者86.0%であり、目標を達成できた。生徒に対して、担任や担当学年の職員だけでなく、管理職や養護教諭、SSWやSC、支援員等が連携することで、予防的関わりや早期対応を行うことができた結果であると考えられる。 ・毎月の生活アンケートの実施や週1回の生徒指導部会で生徒情報の共通理解を図り、いじめや生徒の悩みを早期発見、早期対応に努めることができた。NRTとQ-Uを分析したりすることで、各学年・各クラスの状況に応じた対応や指導を行うことができた。 【課題】 ・不登校生徒や保健室登校者により細かく支援を行うことができるような体制をつくることと、不登校生徒が教室に入ることできるように全職員で協力して指導を行う。 | ・いじめの予防的指導を強化していくとともに、早期発見ができるように月1回の生活アンケートの実施と週1回の生徒指導部会での生徒情報の共通理解を今後も継続して行う。 ・不登校や別室登校者への支援体制の確立を図っていく。 ・家庭・地域・関係機関への情報提供と情報収集に努め、協力、連携体制を強化する。 |
| | ○キャリア教育 | 8 体験活動の充実 | ・意識調査で、生徒・保護者の体験活動に対するプラス評価80%以上をめざす。 | ・これまでの職場体験や福祉体験においては、生徒の主体的な活動となるよう更に改善を図り、価値を体感できるような学習の機会を取り入れていく。 | A | 【成果】 ・生徒、保護者のプラス評価はともに89%であり、目標は達成できた。 ・職場体験を通して社会生活の厳しさや大切さを感じさせることができた。また、地域の良さなどを理解し、勤労観や職業観の育成につながったと思われる。 ・道徳の授業を通して、育を見つめ、夢や目標に向かって自分の生き方を考えさせることができた。 【課題】 ・体験活動を実施していく上で必要な、事前の計画・体験時の心構え・体験後の取り組みを系統的に構築する必要がある。また、将来の夢や希望の実現につながるために、道徳の授業においてキャリア教育を含む内容を実施していく必要がある。 | ・キャリア教育の推進のために、地域との連携体制を引き続き維持し、さらに継続的、発展的なシステム作りを取り組む。 ・道徳の授業において、キャリア教育を含む内容を実施し、将来の夢や目標に対する前向きな考え方を育てていく。 |

④体(たくましい心と体)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|----------|--------------------|--|--|-----|---|--|
| 教育活動 | ●健康・体づくり | 9 体力の向上 | ・体力テスト結果の全国平均以上をめざす。 ・意識調査で、生徒・保護者の部活動に対するプラス評価85%以上をめざす。 | ・体育の授業において基礎体力を向上させるための効果的なトレーニング法を取り入れていく。 ・部活動顧問会議を定例化し、外部指導者とも連携を図りながら、学校生活に活かせる指導の在り方を協議していく。 | B | 【成果】 ・体力テストにおいて、A及びB(上級)判定者は、女子は59.4%・男子は29.8%であった。女子についてはプラス9.4ポイント目標(50%)を上回る結果であったが男子においてはマイナス0.2ポイントと目標(30%)と同様の結果となった。 ・部活動に関する生徒の意識調査ではプラス評価が91.0%で目標は十分達成できた。 【課題】 ・体力の向上での課題は、男子では反復横跳び(敏捷性)、女子では50M走(瞬発力)で、全学年において全国平均値を下回っている。 | ・下半身の筋力の向上を目指したサーキットトレーニングの工夫を目指す。 |
| | ●健康・体づくり | 10 健康意識の高揚 | ・意識調査で、生徒・保護者の保健指導に関するプラス評価85%以上をめざす。 | ・保健室からの健康維持・増進に関する情報発信の充実を図る。 | B | 【成果】 ・保護者のプラス評価は88.9%で目標は十分達成できた。生徒のプラス評価は目標をやや下回ったものの82.3%のプラス評価が得られた。 ・各講演会(性、DV予防、防犯、薬物乱用防止など)を通して、正しい情報と知識を与えることができ、健康意識の向上につながった。 【課題】 ・2年生のプラス評価が他学年と比べると10ポイント前後も低かった。講演会の時だけに終わらず、繰り返し、継続した指導が必要である。 ・全職員の共通理解を図りながら、機会を捉えて、生徒や保護者に情報を発信し、健康に関する知識を広く伝える必要がある。 | ・講演会については継続的に行い、保護者の参加についても呼びかけを行う。 ・保健便り、メール、ホームページ等を活用して、健康情報の発信に努める。 |
| | ●健康・体づくり | 11 食育の推進 | ・意識調査で、生徒・保護者の食育に関するプラス評価85%以上をめざす。 | ・生徒の健康や食育に対する意識高揚のために、関連する校内行事を生徒会活動の中で実施していく。 ・家庭や地域との連携を図り、食育を実施していく。 | A | 【成果】 ・意識調査では、生徒のプラス評価が99%、保護者のプラス評価が85.2%で目標は達成できた。また、生徒のプラス評価は昨年より1.6%上回っている。 ・生徒会活動の中で、給食当番の身なり点検や給食マナーについて呼びかけを行った。栄養教諭による食育講話や、食育便りの発行により、食に関する意識を高めることができた。 【課題】 ・目標は達成できたが、昨年と比較すると保護者のプラス評価が下がっているため、より学校と家庭、小中連携を活かした食育の取り組みを行う必要がある。 | ・食育便りの発行や食育講話などの実施により、家庭における食育に関する意識を高める。 ・「おにぎり弁当」などの行事を通して、小中連携による食育の取り組みを行う。 |

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 | 達成度 | 成果と課題 (左記の理由) | 具体的な改善策・向上策 |
|------|---------|--------------------|---|---|-----|--|---|
| 教育活動 | ○学校行事 | 12 生徒の参画意識の向上 | ・意識調査で、生徒・保護者の学校行事に対するプラス評価80%以上をめざす。 | ・生徒一人ひとりに役割を持ち、出番の機会が増えるように検討し、各学年行事等を実施する。 ・生徒会活動を中心に、「気づき、考え、行動する」を念頭に置いた指導を展開していく。 ・小中連携を活かし、生徒会活動をさらに活性化させる。 | A | 【成果】 ・意識調査では、生徒95.6%、保護者94.8%がプラス評価で、昨年度同様、目標の80%を超えることができた。 ・各学年において、実行委員会を立ち上げて企画・運営に取り組ませることによって、参画意識を向上させることができた。また、小学校と連携してあいさつ運動にも積極的に取り組むことができた。 【課題】 ・各学年に全校生徒が携わることができるよう、今後も計画していきたい。 ・生徒会の専門部の活動に全校生徒が積極的に取り組む手立てが必要である。 | ・生徒一人ひとりに役割を与え、出番を増やす機会を再度検討する。 ・小中連携を活かし生徒会活動をさらに活性化させる。 |
| | ○特別支援教育 | 13 特別支援教育の充実 | ・支援が必要な生徒に対する理解に努め、個に応じたきめ細かな対応ができる校内支援体制を構築する。 | ・個別の支援計画を作成し、特別支援会議やケース会議を適宜開催し、職員の共通理解のもと、適切な支援の在り方を探っていく。 ・夏季休業中に講師を招いての研修会を含め、特別支援教育に関する研修会を数回行うことにより、それぞれの生徒に対して適切な対応ができるようになる。 ・必要に応じて保護者、専門機関や特別支援学校等との連携を図る。 | B | 【成果】 ・夏季休業中及び2学期後半に講師を招いての職員研修を行い、全職員で特別支援に関する知識、理解を深めることができた。また、保護者を交えてのケース会議を行ったり、専門機関と連携を図ったりして、支援の在り方を協議することができた。 【課題】 ・支援が必要な生徒について、個に応じた支援体制の工夫を行う。また、保護者の理解を得られるような働きかけが必要である。 | ・職員間の情報交換を密に行い、支援が必要な生徒の現状把握と支援方法を検討し、支援を行う。 ・保護者や専門機関との連携を積極的に図る。 |

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度の重点目標は、学校運営「働き方改革」、知(確かな学力)「学力向上」、徳(豊かな人間性)「心の教育」、「いじめ問題への対応」、体(たくましい心と体)「健康・体づくり」の5点であった。
 ・学校運営「働き方改革」においては、働き方改革を意図した定時退勤日、部活動休業日の設定・実施ができた。来年度も、業務改革や部活動方針のもと、働き方改革を推進・徹底していく必要がある。
 ・知(確かな学力)「学力向上」においては、TT授業や少人数授業の取組、ICT活用など、分かりやすい授業を行うことができた。その結果、個に応じた指導の成果が現れている。来年度もTT授業や少人数授業など個々のつまずきに対応できる指導体制をつくり指導方法の改善・充実を図る。
 ・徳(豊かな人間性)「心の教育」においては、昨年度に引き続き、道徳の授業や体験活動として、生徒の道徳的価値や心構え・意欲の向上につながる取組を行うことができた。人権教育においても、生徒会主体による人権集会や生徒と保護者が一緒に取り組めるふれあい道徳などを取り組むことができた。「いじめ問題への対応」では、毎月の生活アンケートや教育相談アンケートによるいじめの早期発見・早期対応を行うことができた。来年度も予防的指導を徹底し、いじめのない学校づくりを行う。
 ・体(たくましい心と体)「健康・体づくり」については、食育の推進や防犯教室、薬物乱用防止教室など健康維持・増進に向け取り組みを行い、意識調査の結果も目標を達成することができた。また、部活動では、体力の向上と精神面の育成にも力を入れて取組、その成果が見られた。今後保護者の協力・連携を図りながら一層の成果を求めていく。
 以上、本年度の成果を評価し、次年度への取り組みに対する職員の意欲を喚起しつつ、本年度のまとめとしたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目